

会議録（要点筆記）

会 議 名	第7回米原市総合計画審議会
開 催 日 時	平成28年4月20日（水） 午後7時00分～午後9時00分
開 催 場 所	米原市役所米原庁舎 会議室2A
出席者および欠席者	出席者：岩崎恭典委員（会長）、鶴飼修委員（副会長）、西林正夫委員、川崎祐七委員、竹中礼子委員、田中雄一委員、鏑田鉄雄委員、富岡尚子委員、中野民子委員、福永ひろみ委員、安田智枝美委員、森嘉信委員 事務局：鏑田正広政策推進部次長、政策推進課：小寺真司課長補佐、森川誠、川瀬雅史、竹本沙代、渡邊剛士 傍 聴：なし 欠席者：北川学委員、小竹一男委員、振角大祐委員
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回のまとめ ・ 第2次米原市総合計画基本構想（素案）の施策展開について <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3章（環境・防災）～第6章（都市経営） ・ 今後のスケジュールについて
結 論	<p>・ 前回到引き続き、第2次米原市総合計画基本構想（素案）の施策展開の第3章（環境・防災）、第4章（産業経済）、第5章（都市基盤）、第6章（都市経営）の施策展開について議論した。この議論を参考に施策展開を一部修正する。また、今後の策定スケジュールを確認し、次回審議会のテーマ等を確認した。</p>
審 議 経 過	<p>事務局</p> <p>1 開会 （事務局から開会あいさつ）</p> <p>2 会長あいさつ （会長から開会あいさつ）</p> <p>3 議事 （1）前回のまとめ 【事務局から、前回の概要を説明】</p> <p>事務局</p> <p>（2）第2次総合計画基本構想（素案）の施策展開 第3章 水清く緑あふれる自然と共生する安全なまちづくり【環境・防災】 【事務局から説明】</p> <p>委員</p> <p>熊本の大地震がありましたので、そのことから言いますと、BCP業務継続計画が未策定ということですが、これは取り急いでやってもらう必要があると思います。</p>

	<p>やはり災害対応していく要となるのは市ですし、当然、災害時は職員も職員の家族も被災する可能性があります。非常に少ない職員で要を背負っていかねばなりませんから、優先順位をしっかりと付けて、通常業務に早く乗せるような業務計画を早めに立てていく必要があると思います。</p> <p>それから、地域の情報がうまく伝わっていない。それがやはり地域との業務連絡体系がしっかりできているかということにも関わってくると思います。どの庁舎でしたか、地震で壊れていました。やはりここは大丈夫だと思いますが、耐震の方は大丈夫なのでしょうか。</p>
事務局	<p>山東庁舎は新耐震基準が適合されていますが、残る米原庁舎と伊吹庁舎については新耐震基準に適合していません。老朽化の著しい部分もありますし、米原庁舎に至っては地震がきた場合に倒壊する可能性もある状況です。近江庁舎は建築年数も経っていますが、耐震補強をしています。</p>
会長	<p>本当にBCPの前提のような話ですね。いかがでしょうか。その他、第3章の部分でお気付きのことがありましたら、御発言いただきたいと思います。</p>
委員	<p>避難の運営のあり方がしっかりできているかということ。地区の災害情報がきちんと市に伝わるようになってきているかということ。地区の災害情報が分からないと、市の方も対応ができないと思います。例えば、医薬品にしても、生活物資にしても余っている、足りないなどの情報も必要です。各地域もしっかりしなければなりません、市から地域の情報を取るような形を取ることも大事だと思います。情報の伝達が一番大事だと私は思います。</p>
委員	<p>「BCPの策定に努めます」と書いてありますが、この表現でよろしいですか。</p>
事務局	<p>策定しますに改めたいと思います。</p>
委員	<p>一旦災害が起きた時の連携と、熊本の地震の際も、物資は届いているけれどもみんなに配ることができないという話がありました。普通できて当たり前のことが準備できていないということに驚きました。米原市は大丈夫でしょうか。</p>
事務局	<p>仮に地震が起きた場合、例えば、それぞれの役割があります。私の場合、体育館に避難所開設準備に行くことになっています。避難所には最小限ですが、例えば、明かりや毛布といったものが置いてあります。また、市には災害に備えた備蓄もしています。</p> <p>しかし、実際に地震が起きると道路が寸断されたり、職員が車両を使える状態</p>

	<p>にあるとは限りません。九州などの例を参考にしながら、常に方法を見直すことも必要であると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>庁舎で働いておられる方は少人数ですから、あちこちにばらけると本当にわずかな一握りの人になってしまうので、その下の部分、細かく動いてくれる人の連携も大切かなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>基本中の基本は自助、共助ですね。この部分が動いていないと市がいくらやろうと思っても駄目だと思います。地区や学区単位の防災計画を立てて、それが地域防災計画に生かされているようなところもありますが、そういう組織図ができていると、市の方も対応しやすいと思いますが、なかなかそこまではいかないだろうと思います。やっぱり自主防災組織をしっかりつくって、それがうまく運用できるようにやっていくことが一番大事だと思います。</p> <p>日頃から、市などから指導を受けて、組織として成り立つような仕組みでやっていくべきだろうと思います。地域にそれだけの力のないところもありますので、高齢の方の多い地域もありますから、そこはお互いに連携して進めていく必要があると思います。それから、福祉避難所の指定はされていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>指定しています。</p>
<p>会長</p>	<p>福祉避難所は非常に重要です。お歳を召した方もいれば、人工透析や人工呼吸器を付けている人が避難する場合には、電源の確保が絶対に重要になりますし、それから体温調節ができない人をどのように避難させるかなど、考え出すと大変なことが出てきます。</p>
<p>委員</p>	<p>ずっと私もテレビを見ていたのですが、東日本大震災の時も中越地震の時も専門家は、市の職員ではなくて、ボランティアでもなくて、その真ん中の立場の人をスペシャリストとして養成しているようです。米原市もそういう人材の養成について何か考えておられますか。行政だけでやることはなかなか難しいし、ボランティアがやるのも難しいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>先ほど自助、共助という話がありましたが、市でも自主防災組織の強化に取り組んでいます。市には107の自治会がありますが、うち102の自治会に自主防災組織があります。何かあった時に対応できるよう、各自主防災組織における防災リーダーの養成を進めています。また、テントや発電機などの防災資機材を標準装備品として配備を進めて、地域の防災力を高める取組を進めています。</p>

<p>会長</p>	<p>防災士とか、防災リーダーもそうですが、ある程度、専門的な訓練を受けた人が地域にどれだけいるのかがポイントになると思います。資材はたしかに金をかければ揃います。ただそれを適切に運用して、今、何が必要かということが判断できる人がいないと、宝の持ち腐れになる場合が多いだろうと思います。人材を養成することも計画の中に入れておく必要があるだろうなと思います。</p> <p>第3章について他にいかがですか。よろしければ第4章の説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>第4章 地域の魅力と地の利を生かした活力創出のまちづくり（産業経済）</p> <p>【事務局から説明】</p>
<p>委員</p>	<p>農家が高齢化していて、65歳以上の農家が若手といわれるぐらい農業業界の高齢化は進んでいます。なんとか魅力あるものにしていかなければ、荒地ばかり増えていくのではないかという懸念があります。</p> <p>それからもう一つは鳥獣害についてですが、獣害は農業被害を防止するための対策であるという考え方に思えます。実際、農業だけではなく、イノシシなど夜しか出てこないイメージがありますが、昼間でも出てきますし、新聞の過去の記事を読んでいると、昼間に子どもが襲われたという記事は結構あります。</p> <p>そういう観点から、やっぱり地域の人々を守る、財産を守るという考え方で、みんなで鳥獣害に取り組むことをしていかなければなかなか進んでいきません。農家がやれば良いと良く言われますが、決してそうではないということを認識していただきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>鳥獣害対策は農業だけの話ではないということですね。ある意味、共生ですね。共に暮らせるようなところをつくっていくという話なのかもしれません。</p>
<p>委員</p>	<p>農地は集積、集約化ということで大規模にやる農家だけが対象になっているように思います。もっと小規模で農業をしたいという人ができるように考えていただきたいと思います。特に私が思っているのは、女性の仕事として、これから農業が考えられないかということです。女性の働く場所、働く場所と住んでいる所は近い方がいいですし、子どもを育てている時とかもその方がいいと思います。</p> <p>農業だと雇われるだけではなくて、個人事業主として仕事ができます。今までの男性がガツガツとやる大規模な農業だけではなく、何か支援といいますか、やりやすくするようなことを考えていただけるといいのではないかと思います。もう一つは、農業がお金を得るということだけではなくて、食料を確保する仕事だということをもうちょっと思っておかないと、災害の時に近くで食料が確保できるということはすごく大事だと思います。</p>

委員	<p>第4章の4の市民協働の取組で、米原市の企業においてもワークライフバランスを推進していこうという機運になっていると思います。しかし、実行性についてはどうなのかなと思いますので、ワークライフバランスを推進していこうという項目を入れるべきではないかと思います。</p>
委員	<p>今、発言がありました第4章の4ワークライフバランスもそうですし、市民の協働の取組に高齢者、女性がより活躍できるとか、雇用の機会であれば、障がい者の方の雇用もぜひ入れていただきたいなと思います。</p> <p>それから、商工業になるのかどうかは言葉のニュアンスが難しいのですが、コミュニティビジネスの創出というのを商業的にやるのか、6章のところの小さな拠点であったり、まちづくりと兼ねて書き込んでいくのがいいのかということがちょっと悩ましいなと思いながら読ませていただきました。</p>
会長	<p>第6章のところにコミュニティビジネスはありますが、複数のところにあっている話です。特に第6章は仕組みの方ですから、教育の部分も福祉の部分も色々入ってきて、持続可能性を追求するためにはコミュニティビジネスの手法でやっていないとどうしようもない。</p> <p>小さな農業の話も多分コミュニティビジネスにつながる部分もあるだろうし、それで一人暮らしのお年寄りに対して配食サービスの食材供給につながったら最高だし、分かれて入っても全く問題はないだろうと思います。</p>
委員	<p>第4章の1の観光分野「特産品づくりの推進」の中で「伊吹山の薬草をはじめとする地域資源を生かした」とありますが、これを第4章の2の第6次産業の方へ持ってきて、もう一つ女性でも休耕田で和ハーブ、ヨモギや伊吹山の関連する薬草の特産品を育てる講習会や勉強会を開いて、お土産物につなげるような第6次産業化ができるといいと思います。</p> <p>市のバックアップがないと女性・農業・薬草は結び付いていかないので、女性・休耕田・薬草というキーワードでバックアップしていただけると、乗ってくる女性もいるのではないかと思います。</p>
委員	<p>地元のバックアップがないと、なかなか女性も若者も農地をどう活用していいかも分かりませんし、役場では相談しにくかったりするので、大々的なキャンペーンを打ち出して、それに乗っかる人はいませんかという人集めをしていただけるといいと思います。もう一つは、農地が守られている状態ですので、青地でなくても白地でもなかなか建てられない状態です。農地を外れて空き家を利用しようと思って空き家バンクに登録していますが、駐車場がないなどなかなか大変です。</p>

事務局	<p>農地を守るという国の方針があって、それを外して建物を建てるのはなかなか難しいところがあります。農地が駄目なら事業に適するような土地を紹介するとか、つなぐような仕組みはつくれるかなと思っていますので、女性や若者で新たに起業したいという人の経営に対する支援やバックアップ、背中を押すような仕組みの必要性を今のお話を聞いて感じました。</p>
委員	<p>商工会が米原市とタイアップして創業塾をしていますが、そこから先のステップができないんです。じゃあ、展開しようかとなった時に場所がないわけです。</p>
副会長	<p>職住近接で土地利用をしていかないと、少子高齢化社会は集落が成り立っていかないと思います。</p>
会長	<p>創業支援は色々な手段ができつつあるし、最後、背中をぽんと押すような土地利用緩和の話もあります。ただ、それが市の権限であるかどうかという問題もあつたりします。少子高齢化の中における地域づくりは、モザイクの土地利用というのも、何らかのところでは持っていきたい部分ではありますね。</p>
委員	<p>農林水産業のところですが、福祉の方でも農業の担い手ということと、困窮者や閉じこもりがちの方を人材として活用していく場面として施策にも出ていますが、農業で職親的に付いていただけると意味合いも意義も高い部分があります。そうすると、この計画を横断的に考えていかなければならないところがあるので、ここにそういうことを書くのか、高齢者や子どもや引きこもりがちの方のことを書くのかということところは色々ありますが、つながりを意識していただけるようお願いしたいと思います。</p> <p>そういう考え方もう一つ言うと、第3章の2で地球温暖化対策の推進や森林資源の再生可能エネルギーの利活用など、地域資源循環的なことを書けると活動が広がるのではないかと感じました。</p>
会長	<p>分野別に作成しますので横断的な話というと漏れる可能性がありますので、複数のところに入れておく必要があるだろうと思います。最後の仕組みのところ、この点に注意する必要があると思います。</p>
委員	<p>第4章の1の観光についてですが、市民協働の取組のところ、地域の魅力をPRしましょうとありますが、まず地域の魅力を知るところからやる必要があると思います。やっぱり理解していない人の方が多いのではないかとことを思いました。あとはやっぱり人に話せるようなセンスアップというか、景観のところでも思いましたが、センスがないと人にまでPRするのはなかなか難しいと</p>

<p>会長</p>	<p>思います。色々な薬草も生かしてとありますが、自分が使っていないものを人に宣伝できませんので、まずそこからかなと思いました。</p> <p>あとは外国人観光客の受け入れをするのなら、みんなが外国語を勉強するということが積極的に入れた方がいいなと思います。それは難しいとは言わずにやらないといけないところだと思います。</p> <p>観光はそこに住んでいる人が、ここはいい所だよと言えないといけないわけですから。これが特産品ですよ、これが効きますよ、というように薬草も試さないといけませんね。ただ、人に言われて、あるいは写真を撮っている人を見て、この光景がいいということに気付くこともあります。それを自分で「いいですね」と言えるような、そういうことを知って体験して、その魅力を発信する部分が市民協働の取り組みの中で必要だということですね。</p>
<p>委員</p>	<p>観光に興味のある人が多いと思うので、市内のお祭りやイベントを見ている人が、もっとこういうやり方をしたらいいのにと意見を持っている人が多いと思います。もうちょっと参画してもらえるようなシステムで、米原市の観光をどうしていったらいいと思いますか、みたいな投げかけをしたら、やりたい人はいるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>観光客を取り込むというのはいいなと思いますし、活性化するとは思いますが、ホテル祭りの時だけを見ても、道路がいっぱいで、住んでいる私たちがどこかへ移動しようと思っても混雑して困った状態になってしまっています。受入体制そのものをもっと考えておかないと、生活が乱されてしまうということもあるので、広く色々なところで整備をかけていただかないといけないかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>観光案内所がないので、どこを紹介したらいいのか分からない。</p>
<p>委員</p>	<p>一つ観光の目玉があって、全部が底上げされるかたちになったら素晴らしいなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは次の章にさせていただきます。第5章について、駅周辺の活性化、都市計画、公共交通、道路というインフラの部分になります。</p>
<p>事務局</p>	<p>第5章 心地よく暮らせるにぎわいと交流を支えるまちづくり【都市基盤】 【事務局から説明】</p>

委員	<p>第5章の2に公共交通ネットワークとありますが、ここでいう公共交通ネットワークは、市民の暮らし、日常生活を便利にする、利便性を向上させるための交通ネットワークという意味だと思います。</p> <p>そうすると、例えば、自転車であるとか、地域の助け合いで出し合う車など全部含めての交通のネットワークということになるわけですね。この辺りの意味がよく分かりません。例えば、市民の方がネットワークをつくるということであれば、市民協働の取組で、市内の移動にはできるだけ公共交通を利用しましょう、だけではちょっと弱いかなと思います。ネットワークをつくるという目的を持っているのであれば、公共交通ネットワークづくりに市民が進んで協力するというニュアンスにしていくべきではないかと思います。</p>
会長	<p>そもそも米原でいう公共交通という何がありますか。</p>
事務局	<p>鉄道とバスと乗り合いタクシー（まいちゃん号、かカモン号）が公共交通になります。</p>
委員	<p>公共交通ネットワークというのは、全部あらゆる乗り物を総合して、うまく利便性をよくする。利便性をよくするというのは、待ち時間がそれほどなくても行けるというような、そういうことをイメージしますが、ここでいう公共交通というのは、鉄道、バス、乗り合いタクシーだけを対象にしているということですか。</p>
事務局	<p>先ほど説明したような公共交通はありますが、例えば、駅から次にどこかに行くにも不便だったり、実際に今、公共交通の路線がなかなか生活に密着していない部分もあるかなと思います。通るルートが自分の思うようなルートではないとか、行きたいところに行くために迂回しないといけないとか。これからお年寄りも増えて、運転ができない人も増えてきますので、公共交通をより利用しやすいものにする必要があると思っています。ただ、全てにおいて満足するものは難しいので、移送サービスも活用していかないと十分ではないと思っています。公共交通がどうあるべきかについては市でも検討しているところです。</p>
会長	<p>目指す姿と取組の部分とが同じになってしまっているから話がややこしいわけですね。公共交通ネットワークが形成されていますという目指す姿であれば、そのためにはどういう施策を展開していくのかということがここに入っていないかならませんが、目的がそのまま入ってしまっているから、分かりにくいのだと思います。</p> <p>ただ、これ自体、チャレンジングな試みをやっているところもあります。例えば、僕の今いる四日市市でいうと、10年ぐらい前から「生活バスよっかいち」というものを行っています。地域の住民の皆さんが沿線にあるスーパーや企業か</p>

委員	<p>ら協賛金を得て、そのスーパーや企業の前にバス停を置いて、そしてお金を取ってバスを走らせるわけです。チケットは自治会を通じて購入というかたちになっています。市の年間の持ち出しが70万円とか80万円ということで、100万円以下でバスを運行しているという例があります。</p> <p>今年の2月1日から四日市市の横の菰野町では、カーシェアリングをはじめています。色々なやり方をみんな模索しています。つくりたいのは、移動しやすさです。それが交通ネットワークだと思いますが、車を捨てざるを得ない人が増える中でそれをどのようにして作っていくのか大きな課題です。</p> <p>米原市は車なしでは生活しづらいです。うちも相談を受けると、うちのおじいちゃんが車をぶつけたりするので免許を取り上げたいけれども、取り上げるとその方の社会活動やできることが減ってしまうので、それはある意味マイナスですし、そういうことが本当に難しいなと思っています。</p> <p>そのバランスの中で公共ネットワークがドアツードアまでいけるかということ、非常に難しいとは思いますが。福祉有償運送についても、なかなか規制が厳しいというか、お金を取るためには一定の免許や資格が必要になります。</p> <p>カーシェアリングやレンタカー事業的なことを行政から支援をもらいながら地域に配分するのをNPOや社会福祉の事業所が担うといった仕組みをつくるということは可能性としてできないかと思っています。運送も厳しい規制があって、やりたいとか、隣の人を乗せていきたいという気持ちがあっても、そういうところで引っかかってしまいます。</p>
委員	<p>地元の方が近所の高齢者の方を500円、ワンコインで病院に連れて行くことをされているところがあるそうです。そうすると、おじいさんは知っている人が連れていってくれるからすごく安心して行くんだということを聞いたことがあります。地域の中でそういうシステムができるといいなと思います。</p>
委員	<p>第5章の2の「定住」というのは、移住者の定住という意味だと思いますが、住み続けられるという意味も含めるといいと思います。</p>
委員	<p>第5章の1で駅周辺のことを書かれていますが、近江長岡駅をよく利用しますが、近江長岡駅は朝送迎の車で大渋滞します。駅前のロータリーを一方通行にするなど整備が必要だと思います。御商売で自転車預かりとか駐車場を経営されている方の営業妨害をしてはいけないと思いますが、もうちょっと駐車場整備と駐輪場の整備を全市的にしないと溢れかえっている状態です。車でのお迎えも慣れ</p>

	<p>ている人は同じ方向で迎えに行くのですが、あそこは長浜からも来られますし、南にも東にも行くのに両方から来られていて、初めて来られた方がみんなと一台だけ違う方向を向いて止まられたりするの、やっぱりロータリーを一方通行にしたり、何か改善しないと近江長岡駅がもったいないなと思う時があります。具体的に課題のところには挙がってきていませんが、近江長岡駅は生活と密着しているのもうちょっと利活用した方がいいと思います。</p>
事務局	<p>市でもJR3駅の整備を何とかしなければならないということで、駅前広場や駐輪場などについて、地元と話し合いをしながら取組を始めているところです。第5章の1の主な取組の展開についても、鉄道駅を生かしたまちづくりの推進のところで、「駅周辺の基盤整備を進め」と書いています。</p>
委員	<p>道路交通網のところについてですが、安全で安心して移動できるというところですが、主に車と歩行者のことが書いてあると思いますが、道路整備をする時に自転車が走る場所をぜひ考慮していただきたいと思います。中高生にとって自転車は大事な交通手段ですし、これから観光のことも考えると、自転車で移動することも増えてくると思いますので、自転車と車がうまく走れるような道路を考えていただきたいと思います。</p>
委員	<p>障がい者の部分も含めて合理的配慮であるとか、そういうことが求められている中で、今の御意見のように自転車であったり、障がい者であったりも含めてということで、歩道と車道の2センチの段差があるため車いすが動けないということが現実問題としてあるので、本当に私は当たり前のように通行していても、その辺りの合理的配慮を入れたような整備がこれからますます大事になってくると思います。</p>
委員	<p>道路整備について、醒井は国道21号線1本しかありません。ものすごく雪が降った時は渋滞します。もし地震が来たら、国道が1本しかないのどうしたらいいのかと。違う道が天野川の北側にできないかなと思っています。</p>
委員	<p>市と関ヶ原町、垂井町と21号のバイパスを推進するような同盟会をつくって要望活動をしています。ただ、国の方も実際の交通量が多くなっていかない、渋滞もないということで整備が進んでいない状況です。</p>
事務局	<p>表現は、第5章の3のところにあるわけですね。現況と課題では、期成同盟会の話なんかもあって、そういう関係機関への要望活動をしていくことが、主な取組の展開に書かれています。</p>

副会長	<p>インフラを整備するという事は、維持管理の費用が増えていくということなので、そこをどうするかということはここには書かないのですか。</p>
委員	<p>市道については住民さんに維持管理をお願いしている自治体もありますからね。業者に出すよりも協働によってコストを下げるという方法を取っているようなことも聞いたことがあります。</p>
会長	<p>そういうこともあります。実際のところ、これはもう道路に限らず、公共施設というのは整備をすればするほど維持管理経費にお金がかかっていくし、特に老朽化したインフラを、ここには耐震長寿命化対策実施橋梁数みたいなものはあるけれども、これもどんどん経年劣化していくわけです。その費用もちゃんと見越して、道路整備をしていかなければならないというところをもう少し書き込んでもいいのかなど。そんな感じがしないでもありません。</p> <p>第6章にいかせていただこうと思います。第6章は今までの総論といたしますか、トータルをまちづくりととらえた時に、そのまちづくりそのものを進めるための基盤で、こんなことをこれからやっていくよという項目が書いてあります。ここについて、ちょっと皆さん、色々お考えの部分はあるかと思いますが、御意見をいただければと思います。では、簡単に御説明いただけますか。</p>
事務局	<p>第6章 まちづくりを進めるための基盤（都市経営） 【事務局から説明】</p>
会長	<p>いかがでしょうか。第6章について。今までの話をトータルとして進めていくための仕組みであるとか、推進方策、それから全般にわたっての課題というようなものをまとめたのがまさに第6章ということになります。</p>
委員	<p>第6章の3の現況と課題で、白丸の6つ目、8つ目、自治会の機能が低下しているとか、自治会の枠組を超えた組織作りや地域活動の拠点、小さな拠点の形成に取り組む必要があるというようなことは多分、共通認識としてはあるのだと思いますが、主な展開のところになると抽象度が上がってきて、自治会の次の拠り所というか、そういう集まりというか、広域的なものをイメージしていくのかどうかということ、行政だけが決める話ではないとは思いますが、もうちょっと何かあるといいかと思います。</p>
会長	<p>例えば、その広がりのお話にしても、包括ケアシステムやコミュニティスクール</p>

委員	<p>とかで小学校区というのは一つの目途になった時に、自治会が連携するのも単位自治会なのか、それともそれを少し小学校区域ぐらいで考えるのかというような、何らかの目安は欲しいところになりますか。</p> <p>旧町単位であったり、小学校単位とか、色々な分野によって括り方があると思います。やっぱり自治組織としては自治会の次というのがないと、担い手的にもしんどいという思いが皆さんの中から聞こえてきます。今までのことも守らなければならないけれども、つながる強さというのはどこまで本当に住民さんが許せるのかというのは、またそこもアンケートとかでも知りたいと思うところです。</p> <p>もう一点、第6章の4主な取組の展開の「②組織運営の最適化」で、黒丸の2つ目「行政や地域の諸課題に迅速に対応するため横断的」というのと、先ほどから色々なことからいうと、迅速だけではなくて、やっぱり効果的というか、効率的というか、そういう意味も含めてそれぞれが縦割りでやるのではなくて、一つのことに対して色々なところの役割を担えるような表現があるといいなと思いました。</p>
会長	<p>迅速かつ効果的に対応するため。</p>
委員	<p>横断的ということが迅速になるかどうかは、僕はちょっとよく分かりません。逆に効果的な方がイメージがあるのか、どっちなのか。</p>
委員	<p>第6章の1、市民協働の取組のところ、色々なものに参画しましょうとありますが、自主的に参加してくださいというところでは、今、やっぱり集まってきている人が限度だと思いますので、強制的まではいいませんが、適当に選んで来てくださいというようなことも必要なと。聞かれたら意見を言うという人も結構いると思います。ただ、アンケートでは返す人や、返さない人や色々なので、そういう機会、何かフォーラムとかでも名指しで来てくださいという範囲をもうちょっと広げて、参画してもらおうということも考えた方がいいのではないかと思います。</p> <p>もう一つは、今まであった色々なことを進めていくのに、やっぱり市民自身が自分たちは何ができるのかということを考えていく必要があると思うので、市民のファシリテーターの養成とか、そういうことをやっていかないといけないのではないかと思います。</p>
会長	<p>多様なルートで市民の意向を確認するということと、それから市民が市民同士で色々なことができるように、市民の間にファシリテーターを養成するということを始めておかないといけないということですね。</p>

委員	はい。
委員	<p>第6章の3の新しい地域の仕組みづくりのところで、自治会活動等に参画しましょうとありますが、自治会というと、やっぱり男性の方が多いかなとすごく感じています。私の住んでいるところは大きい自治会なので、組ごとの代表の人が出て行って話をし、組に降ろす形です。多分、その役員さんもほぼ全員男性の方ばかりだと思います。ですから、もっと女性が入っていけるようなことは必要なんじゃないかなと思っています。</p>
会長	<p>それをどこまでこの中で表現できるかという話でもあるけれども、新しい地域の仕組みづくりとして自治会を前面に出していますね。これは、米原はこれからも自治会中心でやっていくよということだったら、それはそれで全然構わないんだけど、自治会の参加者に高齢男性が多くなっていくのは当たり前であって、なぜなら自治会の構成員は世帯主なんだから、世帯主は通常、男だし、二世帯同居、三世帯同居していても、世帯主はひと昔前でいうと戸主ですから、だから男の人だらけになるのは当たり前なんですよね。</p> <p>だから世帯主を構成単位とせざるを得ない自治体が、こういうかたちで新しい地域の仕組みづくりの中の中核を担うということについては、これはちょっと考えておく必要はあるのではないかなと。</p> <p>今、お話があったように、やっぱり女性、それから若者というところの意見をどういうふうに反映できるだろうかということは考えておく必要があると思います。</p>
委員	<p>婦人会が解散したり、老人クラブもなくなったりとかしています。自分の地域ではするけれども、やっぱりもう一つ上のところに出すのは負担だからという話を聞くと、やっぱり連帯感というのは地域ではあるけれども、もう一つ上の広域的なところのつながりが薄くなって、そこまでみんなが力を出し合おうという意識がなかなかまだいっていないのが実情なのかなということも感じます。忙しい反面、そこら辺もちょっと感じたりもします。どんな感じでしょうか。</p>
委員	<p>何が必要かという事が理解できれば地元とまた周辺とのつながりをつくっていくことができるかどうか分かりませんが、必要だなということは分かると思います。</p>
委員	<p>新しい仕組みも、今まであったものをどのようにリメイクするかということとか、もう一度そこを考え直してもらおうということも、力とか資源としてはすごくあると思いますので、そこも非常に大事なのかなと思います。</p>

委員	<p>新しい地域の仕組みづくりですが、住民主体とか、持続可能な地域社会の形成を目指していますね。これは、地域の自立ということがなければできないと思うんです。多分そういう意味で書かれていると思いますが、自治会機能がたしかに低下しているんですが、やはり地域の自治は必要なわけであって、その中で自治会が連携して、大きなこと、各単位とかそういうことをやっていかなければならないのかなと、そういう創造をしてくるんですけどね、やっぱりいつまでも行政に甘えてはいけませんよというのが新しい地域の仕組みで、この辺ちょっと行政側からは書きにくいのかもかもしれませんが、やっぱり地域の自立という言葉が何か欲しいような気がします。</p>
会長	<p>それは重要ですね。</p>
委員	<p>書き方が難しいでしょうが。自立という言葉があると分かりやすいと思います。</p>
会長	<p>今のような表現というのは、例えば、現状ではどういう所に入っていると考えているのですか。</p>
事務局	<p>自立する地域には、自ら考えて行動することが必要なもので、そのためにも地域力を付けて、新しい取組なり課題解決ができるように取り組んで欲しいという思いで「地域力の創造」という言葉で書いています。</p>
会長	<p>地域を強化するというのも非常に大事な事だと思いますが、個人の危機感を持ってもらうということもすごく大事な事だと僕は思います。というのは、今回の熊本地震においても、起きる前から、3日分の食料を持つようにしましょうとか、そういう啓発があるにもかかわらず持っていない人もたくさんあったと思います。逆に持っていれば、また状況も変わっていたと僕は思うんです。そういうことで、もう少し危機感を持ってもらって、個人の力を強めるというか、そういうことも基本的に大事な事だと思います。</p>
委員	<p>ある意味、行政も補完の原則でいうと、自助から共助から公助という部分が示された中で、それぞれが協働していくということが示されると。その言葉は本当に難しいと思います。</p>
会長	<p>いかがでしょうか。色々とまだまだ御意見いただけたと思いますが、時間が9時近くになっています。冒頭で申し上げたように、前回と今回で一通り皆さんに御意見いただきました。お気づきの点については、事務局の方にお届けいただき</p>

事務局	<p>たいと思います。そして、冒頭説明がありましたように、前回と今回の意見については一旦市の事務局で受け止めて、所用の修正であるとか、加筆であるとか、そのような作業をさせていただき段取りに入っていきたいと思います。それを含めて今後のスケジュールについて御説明いただけますか。</p>
会長	<p>4 その他 【今後のスケジュールについて説明】</p> <p>今後の策定スケジュールですが、皆さん方は2回にわたってこの計画素案について御意見いただきました。それを受けて素案を修正し、その修正素案に対してパブリックコメントの機会、今度は一市民としてパブリックコメントに御意見をお寄せいただくという機会があります。それからワークショップに参加して、色々と意見を言うという機会もあるということです。今度、7月8日にはパブリックコメントの結果で修正をしたものについて、皆さんから御意見をいただくことになるだろうと思いますが、その前にパブリックコメント手続きに入る時の段階で、今日までの議論で市の方で修正をしていただいたものについては、基本構想案として私たちの手元に届くという段取りであるということを確認しておきたいと思います。今、御説明したスケジュールで進めさせていただきますので、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、今日、御意見をいただくということについては、全部の項目について一旦終わらせていただきます。ありがとうございます。最後に副会長の方から御あいさつをお願いします。</p>
副会長	<p>5 副会長あいさつ</p> <p>皆さん、お疲れさまでした。一通りまとめることができましたが、まだ最後ではありませんので、まだまだ意見の足りないところは忌憚のない意見をお出しいただきたいと思います。それから、行政はまとめるのは大変でしょうが、これはつくったものに縛られるのではなく、何がいいのか、何が大事なのか、市民と共有することが一番大事な話だと思います。それで柔軟に施策を展開していただきたいと思っています。また、7月8日にどのようなかたちで出てくるかということが少し楽しみです。また次回もよろしくをお願いします。ありがとうございました。</p> <p>6 閉会</p>